

第1章 本県における自殺の現状

1 県内の自殺者数・自殺死亡率の推移

本県の自殺者数は、平成28年は202人と平成10年に急増して以降最も少ない数となりました。平成27年と比較して13%の減少です。自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)の全国順位は、平成27年は37位、平成28年は40位と低く、平成23年以降は全国平均を下回っています。なお、病気以外による死亡割合の比較では、平成28年の自殺者死亡率(25.5)は交通事故死亡率(6.1)の約4.2倍になっています。

図表1 長崎県・全国の自殺者・自殺率の推移

		平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
人口動態統計	県内自殺者数(人)	284	379	368	372	341	368	449	383	432	395	366	372
	県内自殺死亡率(人/10万人)	18.5	24.8	24.2	24.6	22.6	24.5	30.0	25.7	29.3	27.0	25.3	25.9
	全国順位(自殺死亡率)	26位	25位	25位	22位	28位	22位	10位	18位	9位	15位	24位	17位
	全国自殺死亡率(人/10万人)	18.8	25.4	25.0	24.1	23.3	23.8	25.5	24.0	24.2	23.7	24.4	24.0
	全国自殺者数(人)	23,494	31,755	31,413	30,251	29,375	29,949	32,109	30,247	30,553	29,921	30,827	30,229
警察統計	県内自殺者数(人)	315	417	408	419	402	416	482	448	473	423	406	399
	全国自殺者数(人)	24,391	32,863	33,048	31,957	31,042	32,143	34,427	32,325	32,552	32,155	33,093	32,249

		平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28
人口動態統計	県内自殺者数(人)	329	368	320	248	280	268	232	202
	県内自殺死亡率(人/10万人)	23.1	25.9	22.7	17.7	20.1	19.4	16.8	14.9
	全国順位(自殺死亡率)	33位	9位	26位	45位	32位	27位	37位	40位
	全国自殺死亡率(人/10万人)	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8
	全国自殺者数(人)	30,707	29,554	28,896	26,433	26,063	24,398	23,121	20,984
警察統計	県内自殺者数(人)	400	391	347	284	313	295	262	243
	全国自殺者数(人)	32,845	31,690	30,651	27,858	27,283	25,427	24,025	21,897

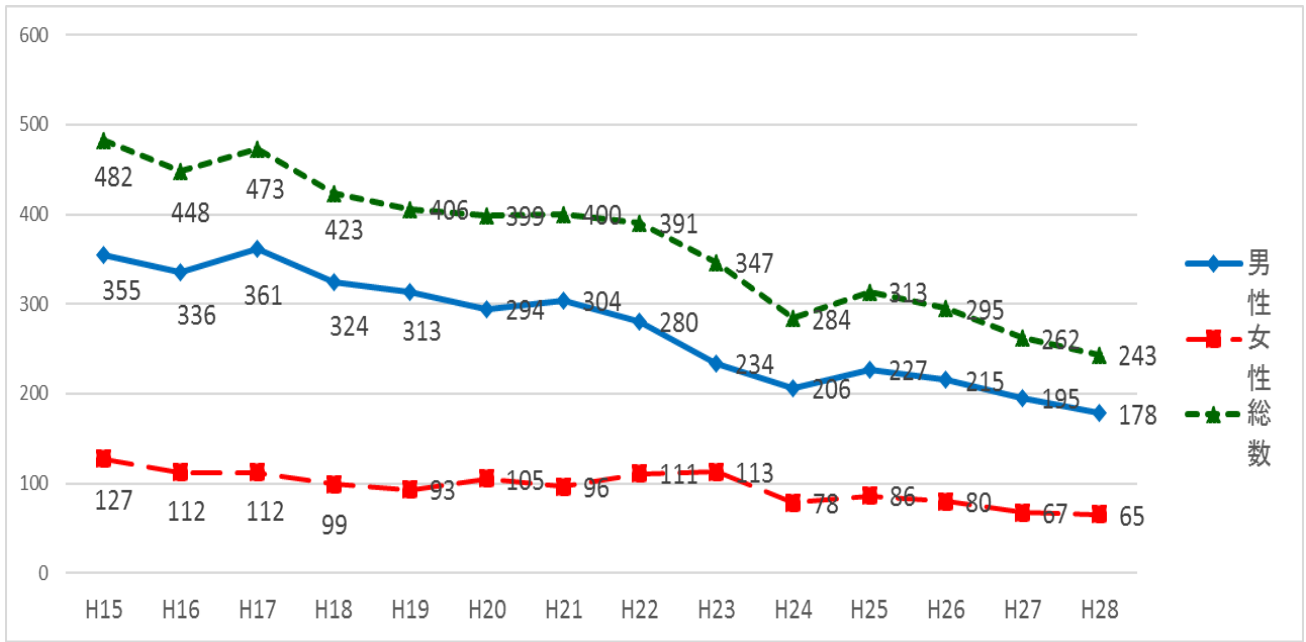
(人口動態統計(厚生労働省)、衛生統計年報(県)、自殺の概要(警察庁、県警))

(注:人口動態統計と警察統計の違い)

- 警察庁では、総人口(日本における外国人も含む)を対象としているのに対し、厚生労働省は、日本における日本人を対象にしています。
- 警察庁では、死体発見時以後の調査等によって自殺と判明したときは、その時点で自殺と計上しています。厚生労働省は、自殺、他殺、事故の別が不明のときは「自殺以外」で処理しており、死亡診断書の作者等から訂正のない場合は、自殺に計上していません。

図表2 県内の男女別自殺者数の推移 (H15年～H28年)

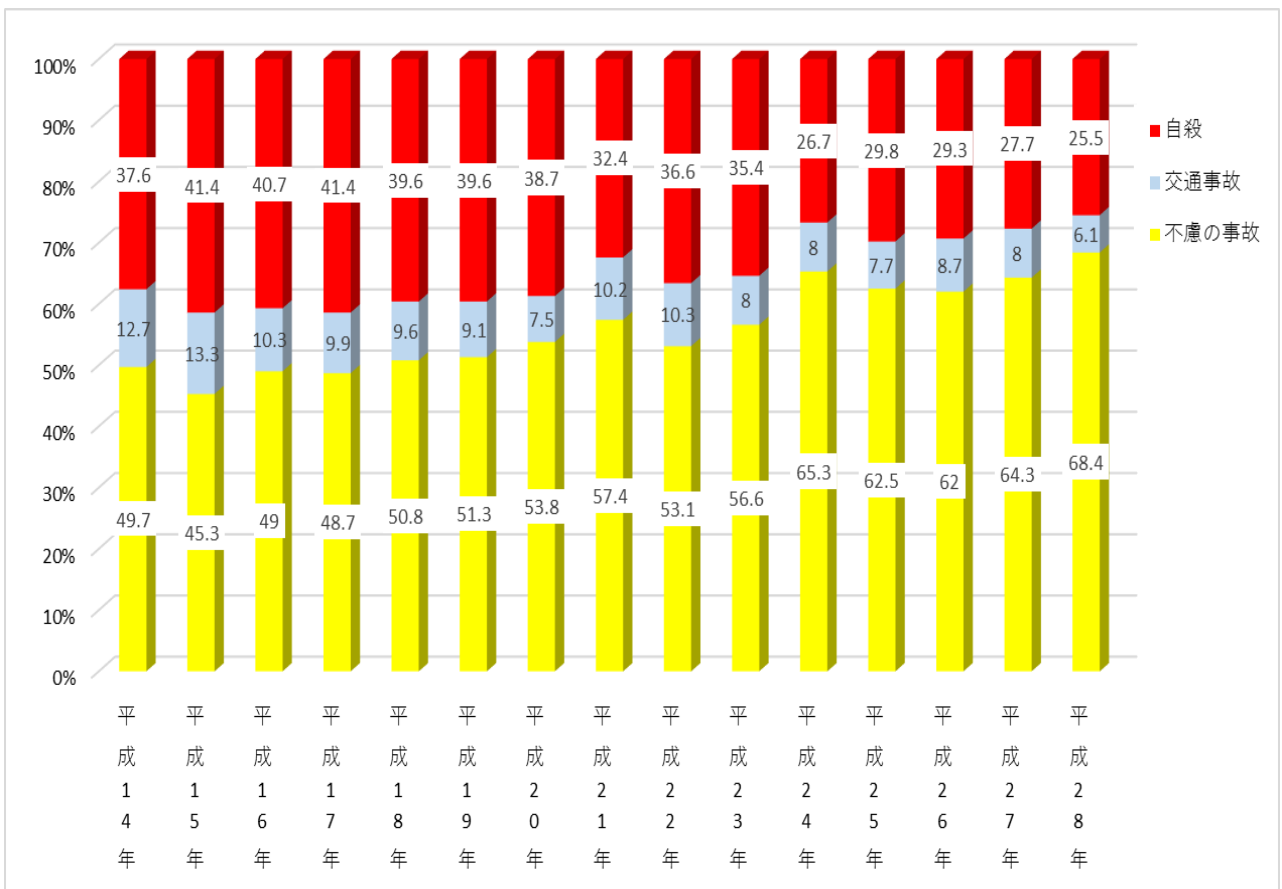
(単位：人)



(自殺の概要 (県警))

図表3 県内の死亡の割合 (病死以外の推移)

(人/10万人)



(衛生統計年報 (県))

2 自殺者の年齢別・男女別状況

平成28年における本県の状況は、年齢・性別では、男性は50歳代（36人）をピークに、60歳代（35人）、40歳代（31人）が多くなっています。

一方、女性は60歳代（18人）をピークに50歳代（14人）、80歳以上（11人）と続いています。40歳代以下に比べ、50歳代以上が占める割合が多くなっています。

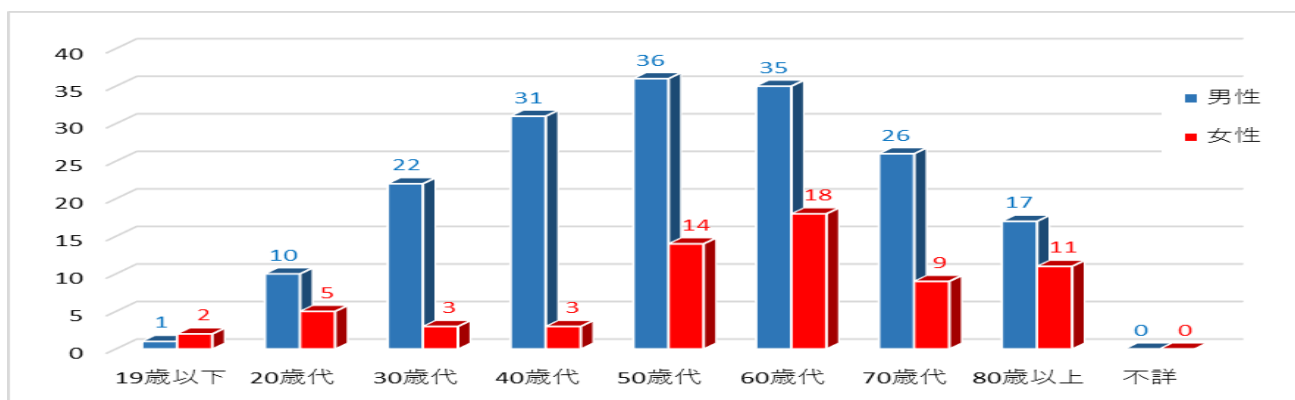
19歳以下を除いて、男性の自殺者が多く、全体でみると男性の自殺者は、女性の2.7倍にのぼっています。

また、平成24年から平成28年の自殺死亡率の推移をみると、19歳以下は横ばい、他の年代は、概ね平成25年または平成26年で増加し、その後減少していますが、20歳代、60歳代は再度増加しています。

図表4 県内の年齢別・男女別自殺者数（H28年）

（単位：人）

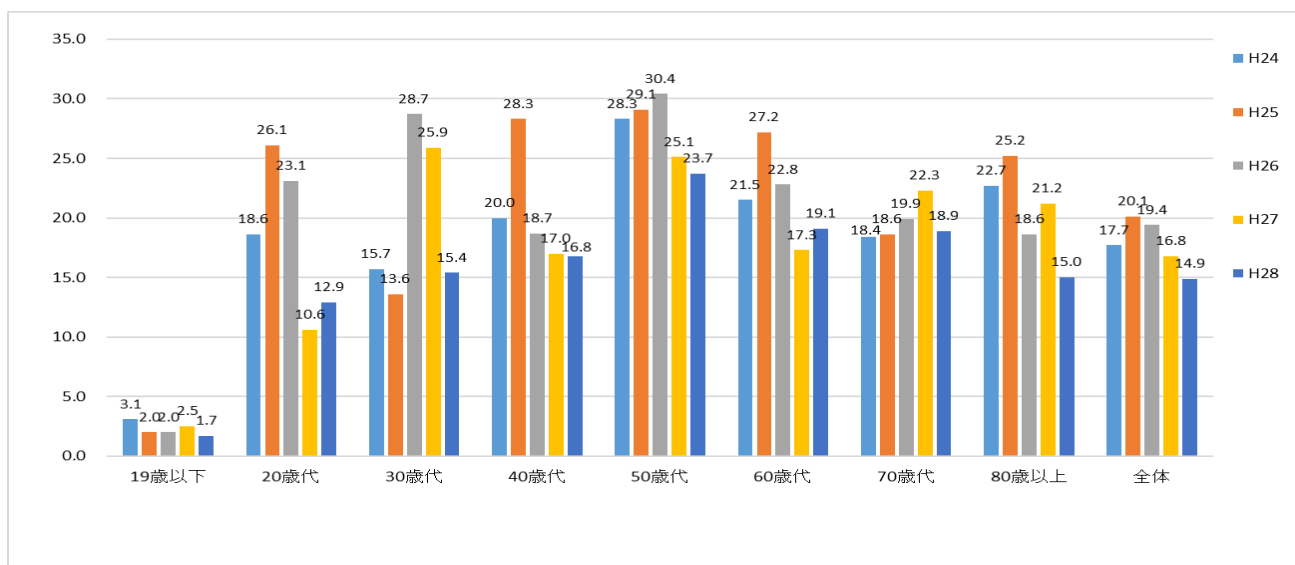
区分	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不詳	計
男性	1	10	22	31	36	35	26	17	0	178
女性	2	5	3	3	14	18	9	11	0	65
計	3	15	25	34	50	53	35	28	0	243



（自殺の概要（県警））

図表5 県内の年代別自殺死亡率の推移（H24年～H28年）

（人/10万人）



（資料：人口動態統計）

3 自殺の原因動機・男女別状況

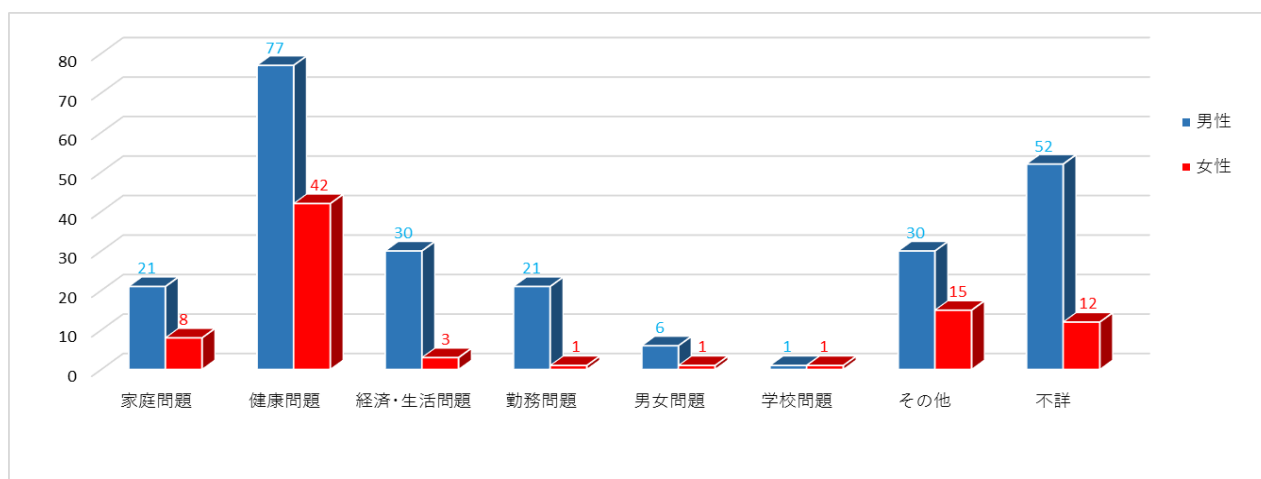
平成28年における本県の状況は、自殺の原因・動機が推定できるものの中で、平成19年以降と同様に男女ともに原因・動機については健康問題による自殺者が多いことがわかります。次いで経済・生活問題、家庭問題となっています。

また、平成24年から平成28年の推移をみると、全体的に減少傾向にありますが、健康問題は平成26年から増加しています。勤務問題は平成27年に減少したものの、平成28年に再度増加しているのが特徴的です。

図表6 県内の原因動機・男女別自殺者数（H28年）

（単位：人）

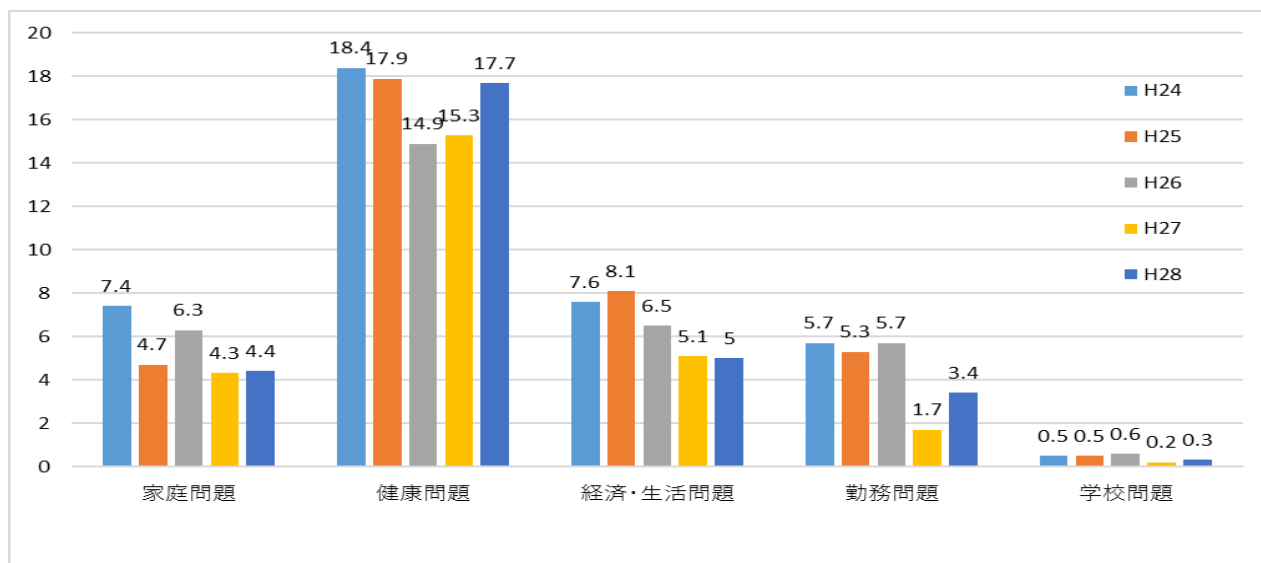
区分	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
男性	21	77	30	21	6	1	30	52	238
女性	8	42	3	1	1	1	15	12	83
計	29	119	33	22	7	2	45	64	321



（自殺の概要（県警））

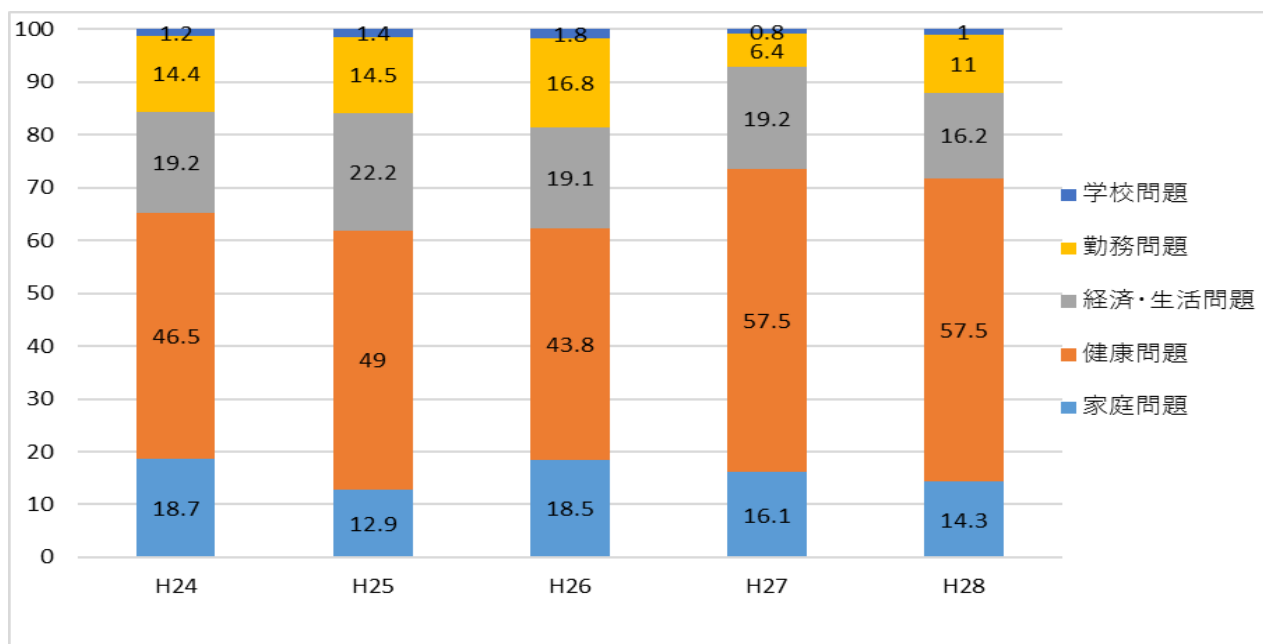
図表7 県内の主な原因・動機別自殺死亡率の推移（H24年～H28年）

（人/10万人）



（自殺の概要（県警））

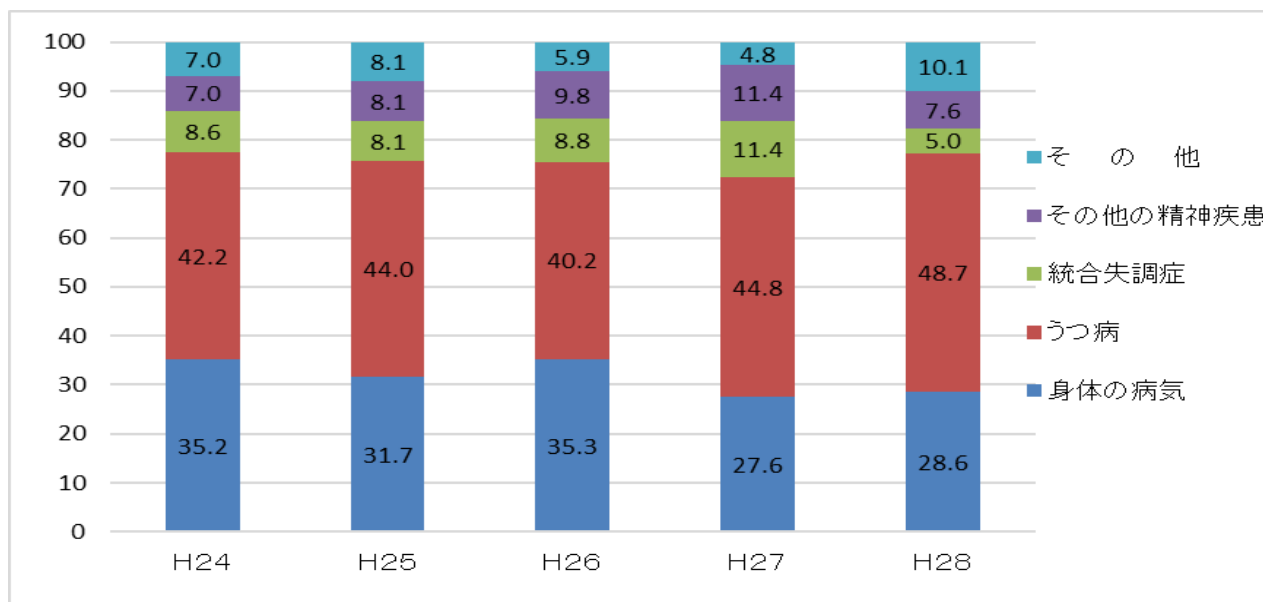
図表8 県内の主な原因・動機別自殺者の割合（H24年～H28年）（%）



（自殺の概要（県警））

平成24年から平成28年の健康問題を原因とする自殺者数の構成比の推移をみると、うつ病を中心とした精神疾患が多くを占めています。身体の病気は全体の3割程度となっています。

図表9 県内の健康問題を原因とする自殺者の割合（%）



（厚生労働省特別集計）

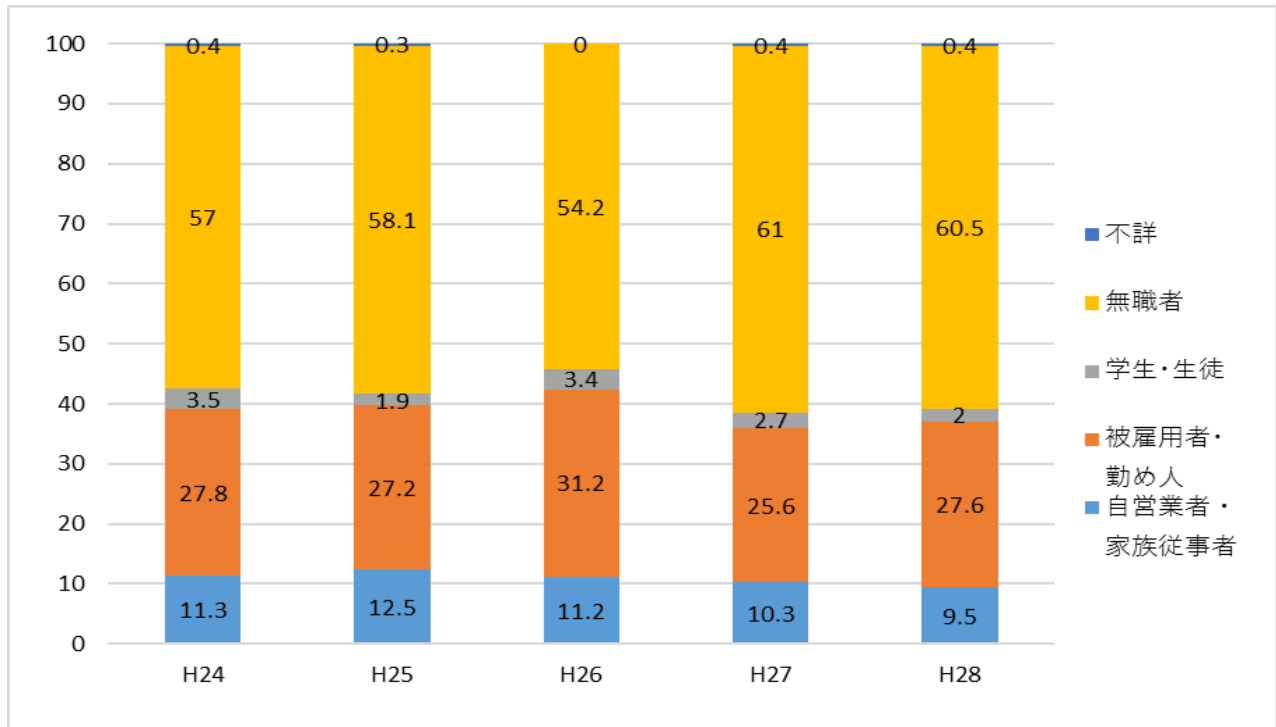
注）自殺の原因・動機については、複数（3つまで）を計上可能としています。これにより、原因・動機特定者の原因・動機別の計と自殺者数とは一致しません。

4 自殺者の職業別状況

平成28年における本県の状況は、経済的要因の一つとして、職業別に自殺者の割合を見てみると、最も多いのは無職者で60.5%を占めています。被雇用者・勤め人(27.6%)、自営業・家族従事者(9.5%)も決して少ないとは言えません。

平成24年から平成28年の推移をみると、職業別の比率に大きな変動はありません。

図表10 県内の職業別自殺者の割合 (H24年～H28年) (%)

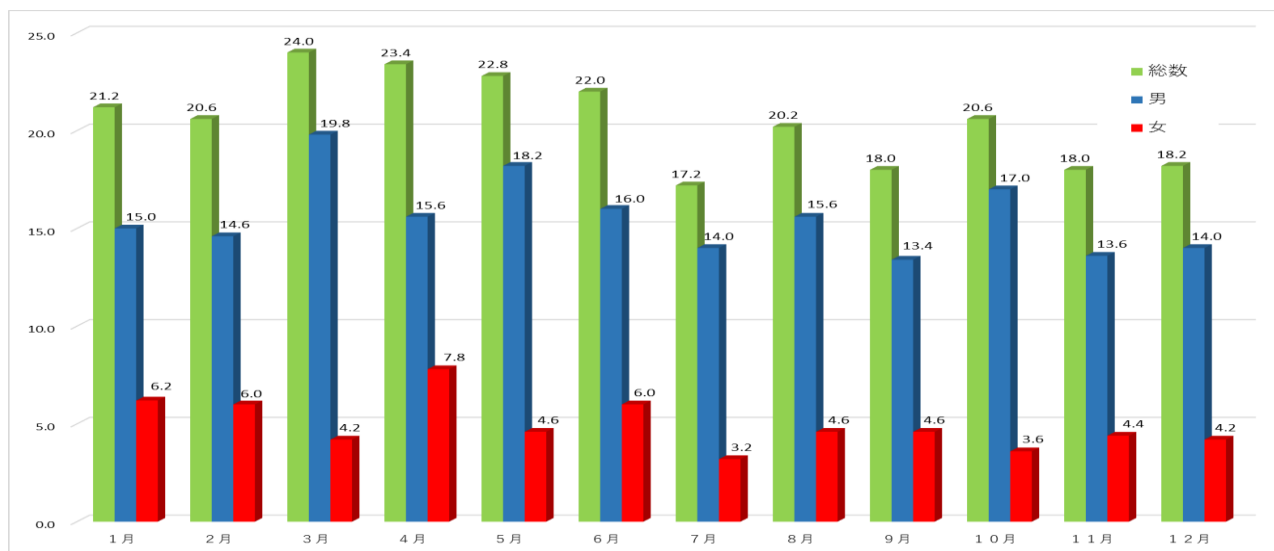


(自殺の概要 (県警))

5 月別平均自殺者数の推移

月別の自殺者数について、それぞれの年では大きな違いがあります。平成24年から平成28年までを平均してみると、春先の3月をピークに6月まで高い水準で推移しています。

図表11 県内の月別平均自殺者数の推移（H24年～H28年）（人/10万人）



（資料：人口動態統計）

6 地域別自殺死亡率

平成24年から平成28年の地域ごとの自殺死亡率の推移をみると減少傾向にある地域がある一方、毎年全国平均を上回っている地域があります。年代別に見ると、県央圏域では60歳以上の割合が約6割を占めています。職業別に見ると、県南圏域、離島圏域では自営業・家族従事者の割合が他の地域と比べると多い傾向です。県内においても地域差が見られます。

図表12 地域別自殺死亡率（H24年～H28年）（人/10万人） ※保健所圏域別

区 分	24年	25年	26年	27年	28年
	死亡率				
全 国	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8
長 崎 県	17.5	20.1	19.4	16.9	14.9
長 崎	12.5	15.8	16.6	15.1	15.5
佐 世 保	19.3	21.4	17.7	16.4	15.4
西 彼	19.4	22.5	20.7	19.8	12.0
県 央	21.5	23.4	16.8	15.3	11.8
県 南	13.4	20.0	26.9	11.0	10.5
県 北	25.1	22.7	31.6	26.1	20.0
五 島	17.8	20.7	23.7	26.8	21.9
上 五 島	16.7	8.6	8.8	18.0	7.8
吉 岐	28.2	32.2	29.1	33.2	30.0
対 馬	27.2	21.6	22.1	25.4	22.7

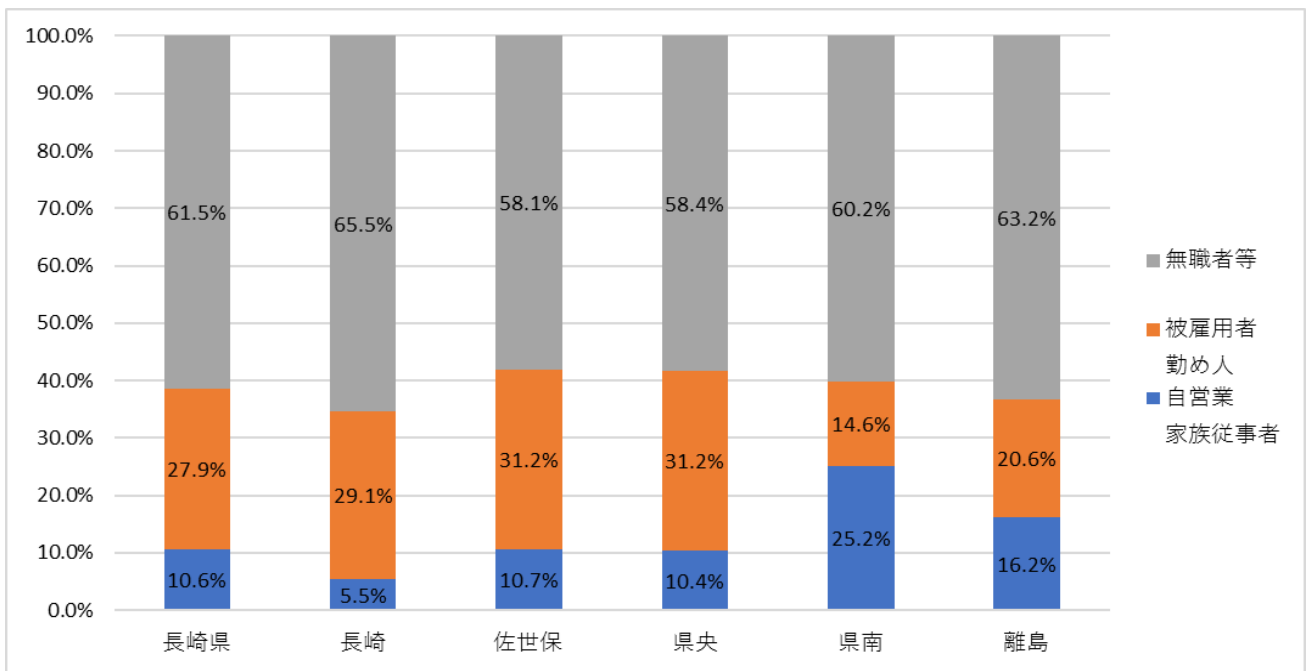
（資料：衛生統計年報）

図表 13 地域別、年代別自殺者の割合各圏域上位3区分 (H24～H28 合算)

圏域	年代	自殺者の割合
長崎県	50歳代	19.5%
	60歳代	19.1%
	40歳代	14.5%
長崎	50歳代	19.4%
	60歳代	18.2%
	40歳代	15.2%
佐世保	60歳代	19.4%
	50歳代	19.1%
	70歳代	15.2%
県央	60歳代	20.4%
	50歳代	19.3%
	30歳代	14.9%
県南	80歳以上	22.0%
	60歳代	19.5%
	70歳代	17.1%
離島	50歳代	29.4%
	60歳代	18.4%
	70歳代	15.4%

(自殺総合対策推進センター：地域自殺実態プロフィール)

図表 14 地域別、職業別自殺者数の割合 (H24～H28 合算)



(自殺総合対策推進センター：地域自殺実態プロフィール)

7 まとめ

- 長崎県の自殺者数（人口動態統計）は、平成10年以降平成15年をピークに年間400人を超える状態となっていました。平成18年以降減少傾向がみられます。平成28年は、前年と比べ13%減少しています。
- 平成28年の自殺者数は、交通事故死亡者数の約4.2倍にのぼっています。
- 50、60歳代男性の自殺者が多く、全体で見ると男性の自殺者は女性の約2.7倍にのぼっています。
- 自殺の原因・動機では、健康問題が多く、次いで経済生活問題、家族問題となっています。健康問題は平成26年から微増を続けています。
- 職業別では、最も多いのが無職者で、次に被雇用者・勤め人となっています。
- 月別の平均自殺者数については、春先の3月がもっとも多く、6月にかけて高い水準で推移しています。
- 地域別自殺死亡率については、過去5年間の地域ごとに比較すると、一部全国平均を上回っている地域もあり、県内においても地域差が見られます。

全国における自殺者数の減少傾向と同様に、本県の自殺者数も平成28年は202人と平成10年に急増して以降最少となりました。この結果は、これまで様々な機関が連携することによって行われてきた、自殺対策の一定の効果もあるものと考えられますが、依然高い数値であることに変わりはなく、今後も、地域特性に応じた一層の自殺対策の継続が求められます。